

1994年の内戦終結後、国家政策により、ルワンダ国民の間におおむね和解が達成された。しかしその一方で、現政権がジェノサイド被害者に赦しを強制し、トゥチのみの被害者性を強調して、フトゥには沈黙を強いるという一面的な正義と和解政策が、両エスニック集団間の緊張を持続させている。過去10年間、草の根の「癒しと和解」活動に従事してきた経験に基づき、ジェノサイド後のルワンダから何を学ぶことができるのか検討する。

▼養豚プロジェクトに参加するジェノサイドの被害者と加害者そして講演者



——ジェノサイド後の国民統合と和解プロセスをめぐって——

# アフリカの奇跡「ルワンダの光と闇」

講演者

佐々木和之

プロテスタント人文社会学研究所(PIASS)  
平和・紛争学科学科長

日時

2015年6月26日(金)  
17:00~18:30

会場

情報教育館3階

参加自由  
申込不要

お問い合わせ先：鍋島孝子 [nabetaka@imc.hokudai.ac.jp](mailto:nabetaka@imc.hokudai.ac.jp)

主催：北海道大学メディア・コミュニケーション研究院／国際広報メディア観光学院

共催：北海道大学公共政策大学院(HOPS)研究センター、北海道大学アフリカ研究会、  
日本アフリカ学会北海道支部